エコアクション21
環境経営レポート2022

第２０期

対象期間　２０２２年7月～２０２３年6月

私たちは、地域と地球の環境に配慮した事業者です

®環境省

エコアクション21

認証番号0008570

２０２４年　3月　5日発行

Techno-Tsukihoshi

株式会社テクノ月星

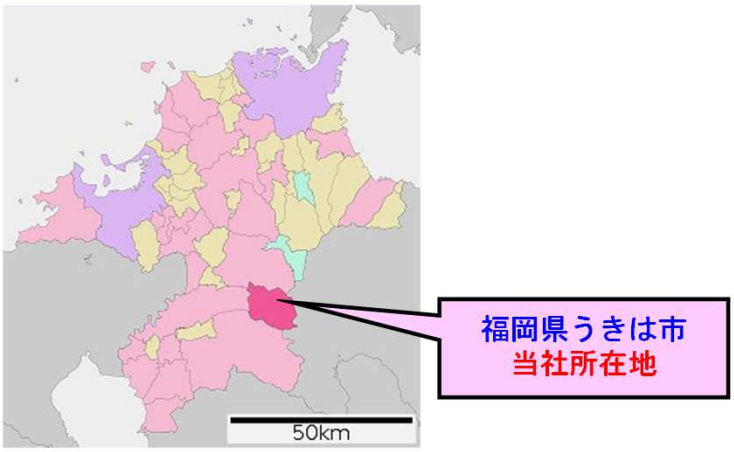
目　　次

1.	組織の概要	4
2.	認証・登録の対象範囲と主要製品	4～5
3.	環境経営方針	6
4.	環境経営推進体制	7
5.	環境経営目標	8
6.	環境経営計画	9
7.	環境経営目標の実績	10～11
8.	環境経営計画の取組結果と評価	12～13
9.	来年度の環境経営の計画	14
10.	環境関連法規の確認及び評価、並びに違反、訴訟等の有無	15
11.	代表者による全体評価と見直し・指示の結果	16

当社所在地

福岡県うきは市の風景

美しい自然と伝統文化はうきは市の宝です。当社は緑豊かな田園地帯に所在しており、工場内には農業用水路もあります。周囲の環境へ配慮した操業にこれからも努めてまいります。

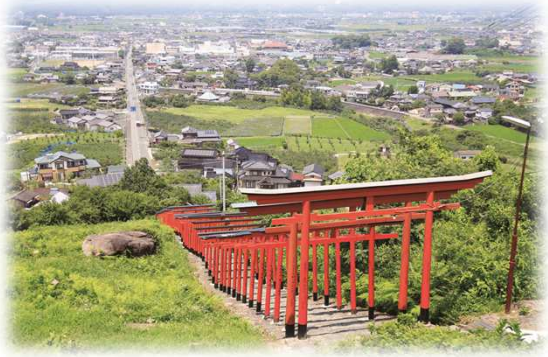


つづら棚田（日本の棚田百選）

吉井　白壁土蔵の街並み

道の駅うきは

浮羽稲荷神社



調音の滝

筑後川の花火

1. 組織の概要

① 事業所名 代表者氏名	株式会社　テクノ月星 代表取締役　柿永　正利
② 所在地	本社　〒839-1498　福岡県うきは市浮羽町高見215番地 TEL　0943-77-2141　FAX0943-77-6949
③ 環境管理責任者 担当者連絡先	常務取締役総務部長　樋口　勝範 総務部　工務課長　　田辺　智之
④ 事業の概要 主要製品	工業用エラストマー製品の設計・開発及び製造 ゴムガスケット、ゴムスリーブ、ゴムホースなど
⑤ 事業の規模	

	2020年度	2021年度	2022年度
売上高（百万円）	2,205	2,447	3,103
従業員数（人）	176	208	225
延床面積（m^2）	25,325	25,325	27,732

※売上高は生産金額に管理費、運搬費等を加えたものである。

⑥ 事業年度	7月～翌年6月
⑦ 法人設立年月日	2004年4月1日
⑧ 資本金	90　百万円

2. 認証・登録の範囲（全組織、全活動）

① 事業所名 所在地	株式会社　テクノ月星 〒839-1498　福岡県うきは市浮羽町高見215番地
② 対象組織	本社・工場
③ 対象活動	工業用エラストマー製品の設計・開発及び製造
④ 関連事業所	なし

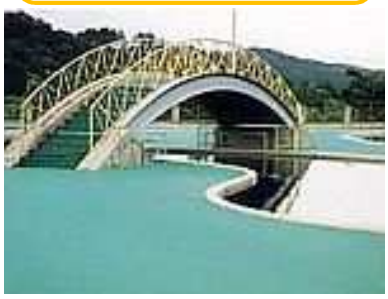
工場内を通る水路

主要製品

●化成品事業部

各種工業用ゴム成型品

発泡PVCクッション材



耐電ゴム手袋

マルチコート
（ガラスびんコーティング）

新開発商品

次世代のクリーンエネルギーである高圧水素に対応する
Oリングを福岡県と共同で開発しました。（特許出願中）

一般Oリング

曝露前　曝露後

新開発Oリング

曝露前　曝露後

●工業用品事業部

製鉄用ゴムスリーブ

ゴム押出成形品・自動車部品

各種ゴムライニング

各種工業用ゴム成型品

船舶・港湾用防舷材

各種シリコーンゴム・
ウレタンゴム成型品

3. 環境経営方針

経営理念

私たちテクノ月星は　お客様に満足いただける

価値ある「もの創り」を通じて社会に貢献します

環境経営方針

〈環境理念〉

当社は、企業活動のあらゆる面で環境保全に配慮し、

継続的な改善を通じて、緑豊かな地域環境を守ると共に、

地球環境への負荷低減や持続可能な社会づくりに取り組みます。

〈行動指針〉

1. 重点目標

（1） 節電と省エネルギー化に努め、二酸化炭素排出量を削減します

（2） 廃棄物の削減及び再資源化に取り組みます

（3） 節水に努め、水使用量を削減します

（4） 化学物質使用量の削減と適正管理に努めます

（5） 生産の効率化に取り組み、環境配慮に努めます

2. 環境関連法規及び、当社が同意するその他の要求事項を遵守します

3. 環境経営方針を全社員に周知し、社員一丸で環境活動を推進します

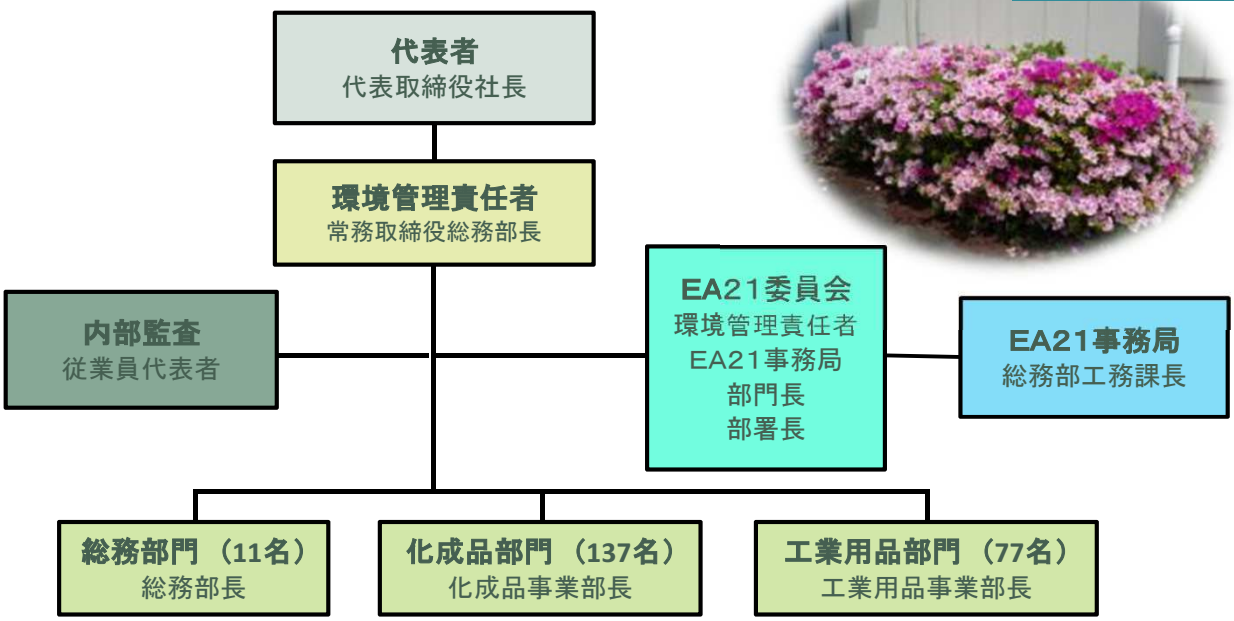
2020年7月1日

株式会社テクノ月星

代表取締役　柿永　正利

4. 環境経営推進体制

工場内の花壇



【役割分担】

所属	役割・権限・責任
代表者	・代表者として環境経営全般について責任と権限を持つ ・環境経営方針を作成・見直し、従業員に周知する ・環境管理責任者、EA21事務局員を任命する ・環境への取組を実施する為の資源（人・物・金・情報等）を用意する ・EA21全体の取組状況に関し評価、見直しを実施する
環境管理責任者	・EA21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築、実行し、環境実績を向上させる ・環境経営目標、環境経営計画を作成する ・毎月1回、環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実行状況を確認する ・上記の結果を代表者に報告する ・内部監査を計画する
EA21委員会	・環境問題に関する必要事項を協議、検討、審議する （毎月の生産販売会議に引き続き開催する）
EA21事務局	・環境管理責任者を補佐し、EA21文書、記録類及び基礎データの作成・維持・集計・管理を行う ・社外からの環境情報の収集と伝達を行う
内部監査委員	・自社の環境への取り組みについて内部監査を行う （内部監査についてはEA21委員会と独立した立場で行う）
部門長	・環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画を部門全員に周知する ・環境経営目標達成のため、責任を持って自部門の環境経営活動を推進する ・自部門で発生した問題点の是正処置、予防処置を実施する ・自部門に関連する法規制等を遵守する ・自部門に関連する緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する ・自部門の教育・訓練を実施する
全社員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚する ・決められた事を守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する

5. 環境経営目標

環境経営目標（単位）		基準年度（2021年度実績）	当年度（2022年度）目標値（基準年度△1%）	2023年度目標値（基準年度△1.5%）	2024年度目標値（基準年度△1.8%）	2025年度目標値（基準年度△2%）
二酸化炭素排出量	総量（kg-CO_2）		3,392,188	3,655,424	3,788,175	—
	原単位（kg-CO_2/百万円）	**1,201**	**1,189**	**1,183**	**1,179**	**1,177**
電力使用量	総量（kWh）		3,629,444	3,911,090	4,053,126	—
	原単位（kWh/百万円）	**1,285**	**1,272**	**1,266**	**1,262**	**1,259**
ガソリン使用量	総量（L）		12,286	13,240	13,721	—
	原単位（L/百万円）	**4.35**	**4.31**	**4.28**	**4.27**	**4.26**
軽油使用量	総量（L）		7,428	8,005	8,296	—
	原単位（L/百万円）	**2.63**	**2.60**	**2.59**	**2.58**	**2.58**
灯油使用量	総量（L）		680,697	733,520	760,158	—
	原単位（L/百万円）	**241**	**239**	**237**	**237**	**236**
LPG使用量	総量（kg）		377,872	407,195	421,983	—
	原単位（kg/百万円）	**134**	**132**	**132**	**131**	**131**
LNG使用量	総量（kg）		680,697	733,520	760,158	—
	原単位（kg/百万円）	**241**	**239**	**237**	**237**	**236**
廃棄物排出量	総量（kg）		341,761	368,282	381,656	—
	原単位（kg/百万円）	**121**	**120**	**119**	**119**	**119**
水使用量（地下水）	総量（m^3）		313,516	337,845	350,114	—
	原単位（m^3/百万円）	**111**	**110**	**109**	**109**	**109**
化学物質の適正管理	—	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
生産効率化（化成品工場）	生産性（円/h）	**7,365**	**7,421**	未設定	未設定	未設定
生産金額計画	（百万円）	-	2,853	3,090	3,212	未設定

※基準年度は、生産品目の変化（自動車向け押出品量産開始）等の要因により従来目標値と現状値に乖離が出てきた為、二酸化炭素排出量と主要エネルギー使用量目標においては2021年度実績を基準値とした暫定目標値を設定した。

※二酸化炭素排出量削減において、購入電力の排出係数は、0.371kg-CO_2／kWh（2019年度九州電力、調整後）を使用した。

※原単位目標の単位は排出量または使用量／生産金額　（生産効率化の単位は生産金額／操業時間）とする。

6. 環境経営計画

(1)二酸化炭素排出量の削減　目標:ボイラ燃料転換で大幅削減して継続中。

取組目標	活動項目
電気使用量の1%削減	・高効率機器への更新
	・照明器具LED化
LNG使用量の削減	・工場毎の蒸気供給時間管理
	・蒸気漏れ箇所の早期改修(随時)
ガソリン使用量の1%削減	・低燃費車の導入・更新
灯油使用量の1%削減	・押出作業時間／工程の検討・調整(加熱設備)
	・押出CV－2起動時間の見直し(時季対応)

※初期に想定した環境経営計画に加え軽油・LPGの使用量及び削減目標を追加。

(2)産業廃棄物排出量の削減　目標:基準値比1%以上削減(単位:生産金額当たり)

取組目標	活動項目
不良損失率1%削減	・作業指導・品質教育の実施
	・プロジェクトチーム活動の活性化
廃却ゴム率の1%削減	・押出:廃却内容の分析、改善／生産工程の見直し
	・ラッピング:貼付厚み・長さ管理／ゴム横流れ改善

(3)水使用量の削減　目標:基準値比1%以上削減(単位:生産金額当たり)

取組目標	活動項目
節水活動の推進	・防火用水吐出量調整
	・給水系統の点検・整備

(4)化学物質の適正管理

取組目標	活動項目
使用量の適正管理	・品種毎の使用量、在庫量の把握
	・目で見る管理の推進

(5)生産効率化の取組み

取組目標	活動項目
生産性向上取組みの推進	・化成品:製造課・技術課が連携し、4Mカイゼンに取り組む
	・工業用品:加硫前検査の徹底、製造方法の確立、作業手順書の改善

7. 環境経営目標の実績

達成状況の判定　○:達成率≧100%　△:100>達成率≦75　×:達成率＜75　達成率:目標値／実績値×100

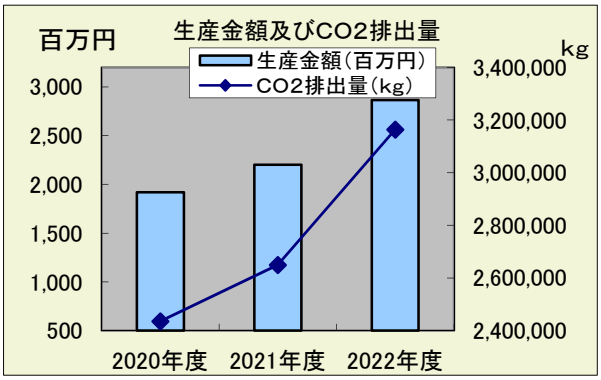
環境経営目標（単位）		当年度（2022年度）目標値	当年度（2022年7月～2023年6月）実績		
			実績値	達成率	達成度
二酸化炭素排出量	総量（kg-CO_2）	3,392,188	3,163,349	108%	○
	原単位（kg-CO_2/百万円）	**1,189**	**1,104**		
電力使用量	総量（kWh）	3,629,444	3,527,246	103%	○
	原単位（kWh/百万円）	**1,272**	**1,231**		
ガソリン使用量	総量（L）	12,286	8,768	141%	○
	原単位（L/百万円）	**4.31**	**3.06**		
軽油使用量	総量（L）	7,428	5,437	137%	○
	原単位（L/百万円）	**2.60**	**1.90**		
灯油使用量	総量（L）	28,501	23,853	150%	○
	原単位（L/百万円）	**12.4**	**8.3**		
LPG使用量	総量（kg）	27,035	25,386	133%	○
	原単位（kg/百万円）	**11.8**	**8.9**		
LNG使用量	総量（kg）	680,697	624,860	109%	○
	原単位（kg/百万円）	**239**	**218**		
廃棄物排出量	総量（kg）	341,761	351,960	98%	△
	原単位（kg/百万円）	**120**	**123**		
水使用量（地下水）	総量（m^3）	313,516	267,427	118%	○
	原単位（m^3/百万円）	**110**	**93**		
化学物質の適正管理	—	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
生産効率化（化成品工場）	生産性（円/h）	**7,421**	**7,652**	103%	○
生産金額	（百万円）	2,853	2,865	※達成率と判定は原単位対象	

※二酸化炭素排出量において、購入電力の排出係数は、0.371kg-CO_2／kWh（2019年度九州電力、調整後）を使用した。
※原単位目標の単位は排出量または使用量／生産金額（生産効率化の単位は生産金額／操業時間）。
※主な化学物質の年間使用量はトルエン：5,577kg/年、キシレン：2,275kg/年、エチルベンゼン：3,086kg/年でした。

過去3年間の環境負荷推移

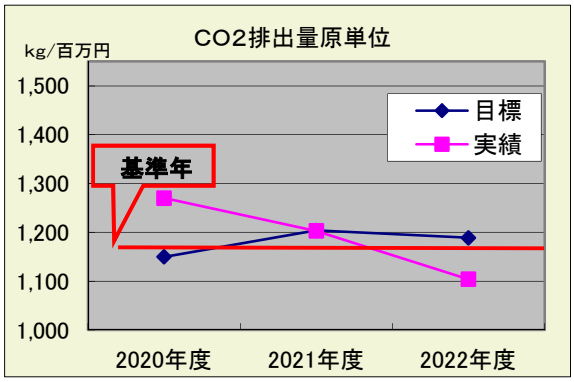
生産金額及び二酸化炭素（CO2）排出量

	2020年度	2021年度	2022年度
生産金額（百万円）	1,918	2,203	2,865
CO2排出量（kg）	2,435,190	2,649,471	3,163,349



CO2排出量原単位（kg/百万円）

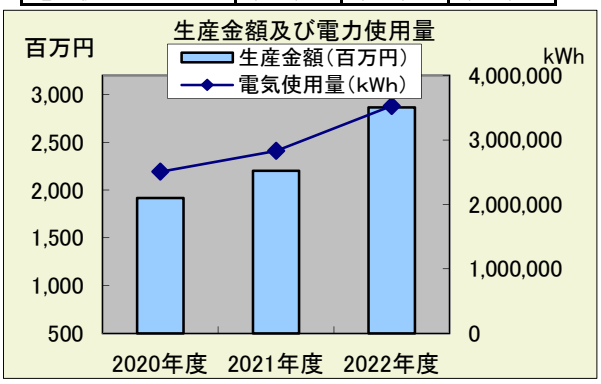
基準年	年度	2020年度	2021年度	2022年度
	目標	1,150	1,204	1,189
1,162	実績	1,270	1,203	1,104



評価：2022年度の生産金額は新規事業の立ち上げにより大幅に増加した。生産金額の増加と新規事業等で生産設備（使用エネルギー量）の変化もあり、CO2排出総量も大幅に増加した。原単位は生産金額の増加により低減している。

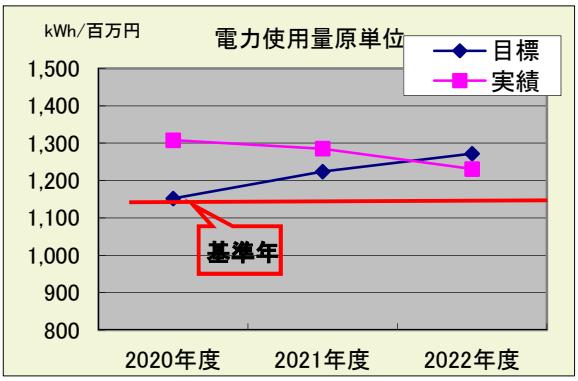
生産金額及び電力使用量

	2020年度	2021年度	2022年度
生産金額（百万円）	1,918	2,203	2,865
電気使用量（kWh）	2,508,802	2,830,868	3,527,246



電力使用量原単位（kWh/百万円）

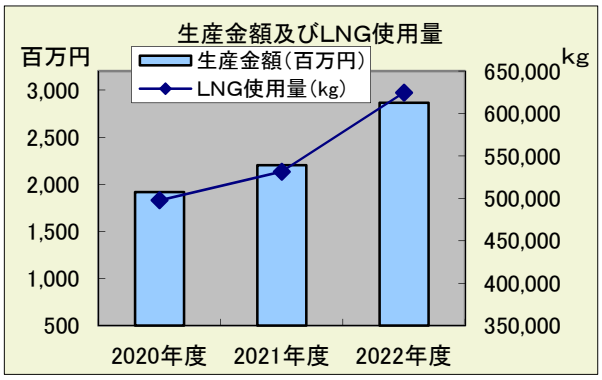
基準年	年度	2020年度	2021年度	2022年度
	目標	1,152	1,224	1,272
1,152	実績	1,308	1,285	1,231



評価：新規事業の量産開始による生産設備の変化や、ゴム混練設備の稼働が増加したことで電力使用量が大きく増加した。生産金額は増加しており、原単位は前年に比べて低減された。

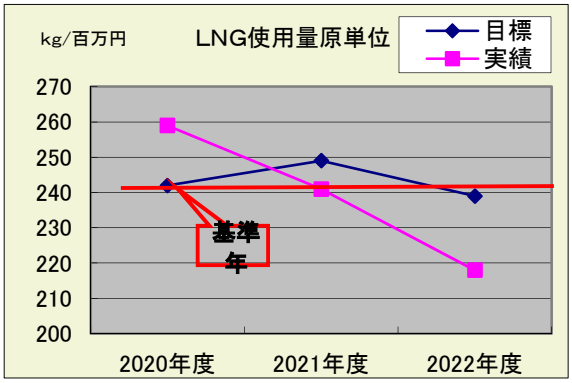
生産金額及びLNG使用量

	2020年度	2021年度	2022年度
生産金額（百万円）	1,918	2,203	2,865
LNG使用量（kg）	497,720	531,520	624,860



LNG使用量原単位（kg/百万円）

基準年	年度	2020年度	2021年度	2022年度
	目標	242	249	239
242	実績	259	241	218



評価：新型コロナ禍の影響も減少し、生産量の増加や新規事業の量産開始により生産設備の変化（加熱設備の増加）がある等でLNG使用量が増加した。生産金額は増加しており、原単位は前年に比べて低減された。

8. 環境経営計画の取組結果と評価

達成状況の判定　○:達成率≧100%　△:100＞達成率≧75　×:達成率＜75　　達成率:目標値／実績値×100
実施状況の判定　○:実行されている　△:実行されているが十分でない　×:実行されていない

(1)二酸化炭素排出量の削減　　目標:基準値比1%以上削減(単位:生産金額当たり)

取組目標	達成状況	活動項目	実施状況	評価
電気使用量1%削減	○	照明機器LED化	○	工場・事務所の未使用エリアの消灯活動、空調のカットを継続的に実施中である。既存工場の蛍光灯→LEDへの更新を継続して段階的に進めている。設備更新時にはLED化や高効率機器の選定を選定の条件に加えている。
		高効率変圧器への更新	○	
		省エネパトロール	△	
LNG使用量1%削減	○	工場毎の蒸気供給時間管理	○	工場部門とエネルギー供給部署との稼働状況の密な連絡により適正な蒸気供給時間管理を実施している。漏れ箇所の早期改修を継続している。
		蒸気漏れの早期改修	○	
ガソリン使用量1%削減	○	低燃費車の導入・更新	○	営業用社用車のエコ運転も社員に定着。低燃費車への更新も終了し目標達成。商談、会議等のWeb活用で車での移動も減少しており、ガソリン使用量が低減されている。
灯油使用量1%削減	○	押出作業時間／工程の検討・調整	○	押出機予熱時間の季節毎の必要時間を細分化設定し実行中。今後も適正な加熱時間管理を継続していく。
		押出起動時間の見直し	○	
軽油使用量1%削減	○	混載便の活用推進	○	社用トラック(2t車)用。 混載便活用も推進中。
LPG使用量1%削減	○	加熱時間の管理	○	加熱の必要時間　必要温度を細分化設定し実行中。今後も適正な加熱時間管理を継続していく。
		工程の検討・調整	○	

【主な活動事例】

社員食堂エアコン更新　2022年10月

更衣室エアコン更新　2023年5月

防爆照明LED化　2022年11月

(2)産業廃棄物排出量の削減　　目標:基準値比1%以上削減(単位:生産金額当たり)

取組目標	達成状況	活動項目	実施状況	評価
不良損失率1%削減	△	作業指導・品質教育 プロジェクトチーム活動	△	新品種の初期不良等で不良損失率が悪化した。改善に向けてプロジェクト活動を継続していく。
廃却ゴム率1%削減	△	押出廃却内容分析・改善 貼付厚み・長さ管理 ゴム横流れ改善	△	継続する課題であるが従来からの技術向上のみでは、行き詰まり感がある。 抜本的改善策の研究、他品種への水平展開の課題が残っている。

(3)水使用量の削減　　目標:基準値比1%以上削減(単位:生産金額当たり)

取組目標	達成状況	活動項目	実施状況	評価
節水活動の推進	○	防火用水吐出量調整 給水系統の点検・整備	○	防火用水吐出量調整、給水管保全等を実施している。 新規事業での生産設備の変化もあり、機器及び工程での冷却水の使用が増加している。

(4)化学物質の適正管理

取組目標	達成状況	活動項目	実施状況	評価
使用量管理の徹底	○	使用量・在庫量の把握 目で見る管理の推進	○	適正に管理され活動は継続されている。

(5)生産効率化の取組み

取組目標	達成状況	活動項目	実施状況	評価
生産性向上取組みの推進	○	4Mカイゼンの取組み	○	新型コロナ禍から脱して徐々に生産金額が回復してきており、後半挽回して年間目標を達成した。 ムリ・ムダ・ムラの削減等の活動も進めており、更なる生産性向上を目指す。
		加硫前検査徹底、製法確立、作業手順書	○	

【その他の活動】　緊急事態を想定した訓練

・消火避難訓練(年2回実施)

2022年11月11日

2023年3月6日

・危険物漏洩対応訓練

2023年1月30日

9. 来年度（2023年7月～2024年6月）の環境経営の計画

環境経営目標	環境経営計画
二酸化炭素排出量の削減 （電力使用量の削減） （LNG使用量の削減） （LPG使用量の削減） （ガソリン使用量の削減） （軽油使用量の削減） （灯油使用量の削減）	○照明機器LED化の推進 ○太陽光発電検討（中長期で検討） ○省エネパトロール、漏れ箇所の早期改修 ○低燃費車への更新・社用トラック運転時のエコ運転 ○輸送品の混載便活用の推進 ○押出し作業時間／加熱・作業工程の検討 ○押出しCV-2起動時間等の見直し（時季対応）
廃棄物排出量の削減	○作業指導・品質教育による不良低減 ○プロジェクトチーム活動の活性化による不良低減 ○押出品の廃却内容の分析・改善／生産工程の見直し ○押出材料の安定化による不良低減 ○ラッピング貼付厚・長さ管理、研磨代見直し、製法見直しとレベルアップによる廃却ゴム量削減 ○ラッピングゴム横流れ押え改善／スリーブ改善活動の推進による廃却ゴム量削減 ○WS押出品の不良低減活動／取引先と連携して推進
水使用量の削減	○防火用水吐出量調整 ○給水系統の点検・整備
化学物質の適正管理	○品種毎の使用量・在庫量の把握 ○目で見る管理の推進
生産効率化の取組み	○製造・技術が連携しムリ・ムダ・ムラの削減に取り組む ○ライニング加硫前検査の徹底（工程検査員養成） ○製造方法の確立、構造物作業手順書の改善

【継続活動項目】 活動が定着し、継続実施している項目

環境経営目標	活動項目
電気使用量の削減	○未使用エリアの消灯及び空調の停止
ガソリン使用量の削減	○エコ運転の実施 ○Web活用等により車移動の削減

10. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価、並びに違反、訴訟等の有無

当社の事業活動において法的義務を受ける主な環境関連法規は次の通りである。

適用される法規制等	適用される事項（施設・物質・活動等）	遵守状況
廃棄物処理法	事業系一般廃棄物、産業廃棄物（廃プラ、木くず、廃油）	適
騒音規制法	コンプレッサ、合成樹脂射出成型機	適
振動規制法	コンプレッサ、合成樹脂射出成型機、ゴム練りロール機	適
水質汚濁防止法	特定施設：直接加硫缶、重油貯蔵施設	適
大気汚染防止法	ボイラ	適
悪臭防止法	キシレン、MIBK	適
容器包装リサイクル法	「まな板」製品の包装資材	適
工場立地法	9,000m^2以上の工場敷地	適
消防法	危険物施設、火災報知器、消火設備、指定可燃物貯蔵庫 熱風炉	適
化管法	第１種指定化学物質（トルエン、キシレン、チウラム、N−（tert−ブチル）−2−ベンゾチアゾールスルフェンアミド）	適
毒物及び劇物取締法	毒物、劇物、特定毒物（トルエン、キシレン）	適
下水道法	50m^3／日以上を排出する事業場	適
フロン排出抑制法	冷媒としてフロン使用の業務用機器	適
土壌汚染対策法	水濁法特定施設工場跡地 ※2013年6月　公益財団法人ふくおか公衆衛生推進機構による第１種特定有害物質１１種（塩素系有機溶剤等）、第3種特定有害物質（チウラム）の土壌調査実施。工場内１３地点の土壌ガス調査、表層土壌調査の結果、いずれの物質も検出なし。	適
特定工場における公害防止組織の整備に関する法	水濁法の汚水等排出施設（直接加硫缶）に対する公害防止管理者（水質）選任	適
労働安全衛生法	有機溶剤（有機則）、特定化学物質（特化則）、小型貫流ボイラ及び第１種、第２種圧力容器（ボイラ則）	適
高圧ガス保安法	LNGサテライト設備（第一種貯蔵所）	適
省エネ法	第二種エネルギー管理指定工場：事業所全体のエネルギー使用量（原油換算値）1,500kL／年度以上　⇒2019年6月指定	適
ウラン又はトリウムを含む原材料、製品等の安全確保に関するガイドライン	トリウムの放射能が１Bq／gを超える場合	適

2023年6月30日　上記の環境関連法規の遵守状況を確認・評価した結果、違反はありませんでした。
また、関係機関等からの指摘や利害関係者からの訴訟もありません。

11. 代表者による全体評価と見直し・指示の結果

	項目	評価
全体評価	環境経営方針	全従業員が環境経営方針と自身の所属部署毎の目標に対して、環境負荷軽減を意識した生産活動を推し進めてください。
	環境経営目標及び環境経営計画実施状況	従来製品のコロナ禍からの回復や新規事業の自動車部品の増産等により全体の生産金額が増加した事でエネルギーの効率化ができてきた。CO2排出原単位、エネルギー使用原単位は目標を達成した。一方、廃棄物排出量の削減においては、新規品での不良発生等が影響し、目標を達成できなかった。不良低減に一層注力していく。

	指示項目	変更の必要性	指示内容
見直し・指示	①環境経営方針	今後変更が必要	中期計画でSDGsについて検討する。
	②環境経営目標	一部変更	生産品目の変化により、生産状況の大幅な変化があり、生産設備のエネルギー負荷増や廃棄物増が今後も予測される。 新規事業の生産もまだ安定した状態とは言えず従来基準値からの目標設定は困難であり、暫定目標を設定して監視し、随時目標値の見直しを行なう。
	③環境経営計画	なし	継続実施
	④環境経営システム	今後変更も検討	EA21も10年以上経過しマンネリ化が有り、目新しい改善部分も検討する時期。
	⑤実施体制	なし	継続

株式会社　テクノ月星
代表取締役　柿永　正利

確かな技術で
切り拓く未来

Techno-Tsukihoshi

〒839-1498
福岡県うきは市浮羽町高見215

株式会社テクノ月星

TEL：0943-77-2141
FAX：0943-77-6949